



【重点取り組み】

「親子のこころの健康を地域で支える健康づくりに取り組みます」

乳幼児期からのより良い家族関係を築くために、親の子どもへの接し方のスキルを高める新たな事業を検討します。また、地域で孤立することなく子育てするために、父親への支援を行うこと、地域住民・関係機関と一緒に地域の特性に合わせた「子育てしやすいまちづくり」を行うことを、地域ごとに実施している地域会議*（地域情報交換会等）を中心に推進します。

1. 子育てしやすいまちづくりについて

子ども支援センター・地域子育て支援センター子育てアドバイザー（保育士）と母子保健課保健師を中心に、地域の現状や特性に合わせた活動をすすめています。

地 域	開催回数 (情報交換会)	主 な 取 り 組 み 内 容
阿 蘇	3 回 (1 回)	今年初めての試みとして情報交換会の前に、「地域の人とトッパスに遊びに来ている親子の交流会」を実施した。地域の人に地域子育て支援センターを見てもらう機会となったり、世代間を超えた交流ができた。情報交換会では、各団体の紹介や子育て支援に関する活動報告、阿蘇地区の特性と事業報告、地域の現状や課題、交流会についての意見交換会等を行った。母子保健推進員の勉強会を3回実施し、地域の特性を確認したり、他地区の母子保健推進員と情報を共有した。次の親になる世代の支援として、近隣の中学校に説明に行きジュニアなかよしボランティアの登録（5名）につながった。
村 上	10 回 (1 回)	たんぼぼ便りを幼稚園や保育園、民生委員、支会、多文化交流センター、村上団地商店街の商店、みらいサポートに配布することでPR活動をしつつ、継続的な関係づくりをすることができた。情報交換会では、小中学校校長を含めた子育て支援に関する各機関が参加し、活発な意見交換を行った。出前広場・赤ちゃん広場には、主任児童委員や、すくすく文庫がボランティアとして参加した。出前広場ではひとり人形芝居（きららさん）もボランティアとして参加し、紙芝居や絵本の読み聞かせを行った。
睦	3 回 (1 回)	平成 27 年度の地域情報交換会で「睦地区の子どもの安全を守る視点で考える」をテーマに地域の危険箇所等の情報を共有し地図に書き込み、以後、その地図を地域子育て支援センター つばめに掲示し、来所した母子や母子保健推進員からの情報を追加しており、新しい情報を地域情報交換会で共有している。平成 29 年度は、阿蘇地区の母子保健推進員と初めて合同勉強会を1回開き、その中で、新興住宅地の開発に伴い、若い世帯が転入により増加したり、外国籍の方が増えてきた、という話題がでた。地区の様子が少しずつ変化してきていることを受け、防災に関する情報の追加に加え、転入された若い世帯や外国籍の方とのつきあい方をどうしているか、困り事はないか等についても話し合った。
ゆりのき台 大和田新田下区	6 回 (1 回)	情報交換会を開催し、「夫婦で子育て」をテーマにグループワークを行った。また、ゆりのき台、大和田新田下区の母子保健推進員の勉強会をすてっぷ2 1大和田で開催し、子ども支援センターの雰囲気や役割などを改めて共有することができた。その他、母子保健推進員は、4か月児赤ちゃん広場や大和田新田下区公会堂の遊びと交流の広場に参加して地域の母子と交流したことにより、訪問時に4か月児赤ちゃん広場の説明を具体的にすることができた。
大和田	6 回 (1 回)	平成 27 年度よりすてっぷ2 1大和田の子育てアドバイザーを中心に、大和田支会祭りへ防災ブースを出展し、乳幼児の保護者を対象に非常持ち出し品のモデル展示等を実施している。情報交換会は 28 年度同様、ゆりのき台地区・大和田新田下区地区と合同で実施した。（ゆりのき台・大和田新田下区地区を参照。）

高津	7回 (1回)	母子保健推進員が所属するやちよ元気体操応援隊の力を得て、こあらタイムでやちよ元気体操を実施、世代間交流を図った。はぐみの杜保育園の見学を行い、施設の安全管理など特色を学んだ。平成29年度は緑が丘地区と合同で情報交換会を行った。各団体の活動や、地域の親子と行っている交流について意見交換を行った。
緑が丘	2回 (1回)	緑が丘西地区の開発が進んでいることから、お散歩マップの改定に向けて母子保健推進員と緑が丘西地区の地区踏査（地区を歩いて回り状況を確認すること）を行い、取り組みをした。また、平成29年度は高津地区と合同で情報交換会を行った。各団体の活動や、地域の親子と行っている交流について意見交換を行った。
八千代台	5回 (1回)	支会や自治会などが主催している世代間交流を目指したイベントへの協力参加を継続的に実施。10月には作業部会を開催し、八千代台地区独自で作成している子育て応援ブックの見直しを行った。また、2月の情報交換会では、「今の母たちについて思う事」をテーマにグループワークを行った。
勝田台	4回 (1回)	平成29年度は世代間交流を目的とした「地域のおばちゃんとおしゃべり会」を行った。「地域のおばちゃんとおしゃべり会」に参加した人たちと、防災についても意見交換を行い、11月の勝田台地区総合防災訓練でブースを出展するための掲示物を選定した。1月の情報交換会では「子育て世代とどう関わっていけばよいか？」をテーマにグループワークを行った。

*地域会議とは、「子育てしやすいまちづくり」の実現にむけ、関係機関や住民組織が集まり、情報交換や課題を検討し実践する会議です。平成29年度は7回、合同開催を含む全域において地域会議（地域情報交換会）を行いました。



2. 親の子どもへの接し方のスキルを高める事業について

- ①地域子育て支援センターと母子保健課で構成する子育て学習講座プロジェクトチームにおいて、子育てにおけるコミュニケーションを具体的に学ぶことを目的に、「子どもとのグッとコミュニケーション」～子どもにわかりやすい伝え方・ほめ方・叱り方について～をテーマとし、講座形式に限らず、本事業の目的を達成できる方法・手段を幅広く検討をしました。また、利用者からの相談には、子どもへの接し方についてわかりやすく伝えるなどの対応をしました。
- ②1歳6か月児歯科健康診査や2歳6か月児歯科健康診査の事業において、厚生労働省の健やか次世代育成総合研究事業で作成された「子どもを健やかに育むために～愛の鞭ゼロ作戦～」のリーフレットの配布や育児相談で、子育てのアドバイスを実施しています。

3. 夫婦で子育て（父親への支援）について

子ども支援センターと地域子育て支援センターで子育て中の父親と母親にアンケートを実施しました。父親には「おすすめの遊び方」「子どもと過ごして困ったこと&乗り切るためにした工夫」「これからパパになる人への応援メッセージ」を、母親には「うちのパパのすごいところ」をそれぞれあげてもらいました。アンケート結果を、有志の母たちとまとめ、パパへの応援新聞を作成しました。妊娠届出時の配布、子ども支援センター・地域子育て支援センターでの掲示、市ホームページへの掲載等で情報発信しています。

【その他の主な取り組み】

1. 子どもの食育に関する取り組み

「食を通じて子どもの社会性と食の自己管理能力を身につけ、しなやかな身体、豊かな心を育てます」

本取り組みは「やちよ食育ネットワーク協議会」が行う事業と、母子保健・子育て支援事業を中心に進められている事業の2本柱で推進しています。

(1) やちよ食育ネットワーク協議会が行う事業

◇食育推進事業「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」の実施

農業生産者と関わりのある食育授業を小学校全校で実施することを目指して、平成24年度より食育推進事業「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」を実施。本事業は小学3年生を対象に、人参・ねぎ・梨・ほうれん草・酪農のいずれかの農業生産者が学校に訪問し、農業生産者・学級担任・栄養教諭等の連携で授業を行いました。

平成29年度においては、「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」調査において、農業生産者の協力を得て行う食育授業を実施する予定がないと回答した11校に、コーディネートを実施しました。学校によっては、本事業の前後に発展的な取組も実施されています。

《会議の開催》

- ・やちよ食育ネットワーク協議会・分科会合同会議 1回開催
- ・やちよ食育ネットワーク協議会・分科会会議 1回開催
- ・やちよ食育ネットワーク協議会 1回開催

◇「学校での食育を推進するための学習会」の開催（平成29年7月21日）

農業生産者・小学校教諭・栄養教諭及び学校栄養職員・やちよ食育ネット分科会委員を対象に、市内小学校の食育推進のための学習会を開催しました。食育推進事業「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」の事業説明や、実施マニュアル（学級担任用）の活用方法、農業生産者・学級担任による授業展開の紹介等を行いました。

◇広報誌「やちよ食育マガジン」の発行

食育に関する情報発信のため、広報誌「やちよ食育マガジン」を発行し、学校関係者、小学校保護者、食育や農業に関わる機関などに配布しました。（平成30年2月 vol.24 発行）

◇実践事例の発表

生産者と消費者をつなぐ直売所の取組や教育現場における農業に係る食育取組及び農業体験による交流を知り、今後の食育活動や農産物消費拡大に役立てる事を目的とした「千葉地域食と農の活動交流会」において、やちよ食育ネットの取組「農業の先生とのふれあい授業」を発表しました。

(2) 母子保健・子育て支援事業を中心とした食育

妊娠期から継続した食育事業を展開しています。

◇妊娠期

妊娠に対しての食育（プレママ教室参加189名）

◇授乳期

4か月・10か月児赤ちゃん広場事業での食育（参加者2,455名とその保護者）

◇幼児期

- ・もうすぐ1歳半おやこ広場での食育（参加者726組とその保護者）
- ・「みんなで食育事業」注1での食育（28回実施 参加者親子329名）
- ・公民館・サークルからの依頼による出前食育講座（2回実施 参加者14組）
- ・子育て応援ポケット事業での食育（相談人数25名 リーフレット配布枚数2,254枚）



▲小学校での授業の様子。梨の生産者から生産・出荷等についての説明を受け、試食を行う。

注1：「みんなで食育事業」とは、食を通じて生活力や育児力をつけることを目的に地域参画型・体験型で行う事業

2. 思春期保健ネットワーク会議の取り組み

「思春期の子は自分や他者を大切にし、生と性の課題について適切に対処します」

本取り組みは平成 18 年度に発足した八千代市思春期保健ネットワーク会議を中心に医師、助産師、学校関係者、保護者などのメンバーで推進しています。

(1) 八千代市思春期保健ネットワーク会議の開催

平成 29 年度は計 5 回の会議を行い、「思春期の生と性」の活動について検討しました。

(2) 思春期保健シンポジウムの開催

保護者が生と性の課題をはじめとした思春期保健の重要性を認識し、各家庭での取り組みに繋げることを目的に、平成 19 年度より思春期保健シンポジウムや研修会を開催しています。

思春期保健シンポジウム「10代の生と性」第11回
講演：「大切ないのち・大切なからだ」～小・中学生に伝えている生と性の健康講座を保護者にも伝えたい～

平成 30 年
1月28日(日)



▲講師の鶴岡利江子氏と大谷理恵氏

11 回目を迎えた平成 29 年度の思春期保健シンポジウムは、千葉県助産師会習志野・八千代・鎌ヶ谷地区部会の大谷理恵氏と鶴岡利江子氏をお招きし、子どもへの生と性の健康教育を大人が学び、家庭でも正しい知識を子どもに伝えることができるよう、小学生向けと中学生向けの二部構成で講演を行いました。

当日は 77 名の保護者と子どもの参加があり、参加者のアンケートからは「全ての子ども達に知ってほしい」「自分の体を知るということがとても大切だと感じた」等の感想が聞かれました。

(3) 中学生向けリーフレットの配布

性に関する正しい知識を得られるサイトや相談機関を掲載した「中学生向けリーフレット」を、中学 1 年生とその保護者を対象に配布しました。



(4) 「八千代市オリジナル生と性の教育教材」の検討（作業部会）

平成 25 年度に作成した「八千代市オリジナル生と性の教育教材」に掲載している統計データについて、平成 30 年度の更新に向け協議しました。



(5) 思春期保健ネットワークニュースレターの発行

保護者や教員を対象に、思春期保健ネットワーク会議の取り組みを伝えることを目的とし、思春期保健シンポジウムの報告を中心としたニュースレターを発行しています。